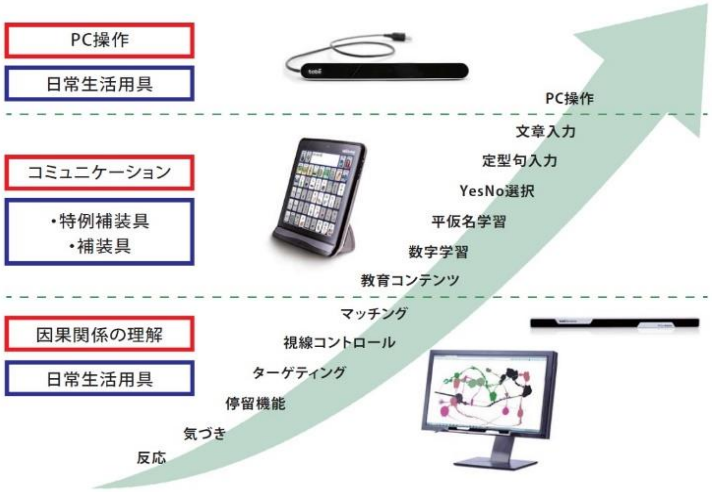
情報ボックス

今回は、情報ボックスNo.24で紹介した『視線入力装置』(以下、トビーと記します)の活用について、本校で実践している例をご紹介します。トビーの詳細については情報ボックスNo.24をご参照ください。

活用する児童生徒

運動障がいが強く自分の手を使った学習（指差しや手で物に触れるなど）が難しい児童生徒にとって、認知・コミュニケーションの学習などを進める手段の一つとして活用することができます。肢体不自由児校に在籍する児童生徒は、運動障がいにより学習活動が制限される場合が多いです。しかし、トビーを用いることで視線により「追視・注視する」「物と物とを見比べる」といった活動を通して、学習を行うことができます。右図のように児童生徒の実態に沿った課題を設定します。



「視線コミュニケーション」のステップアップ *)

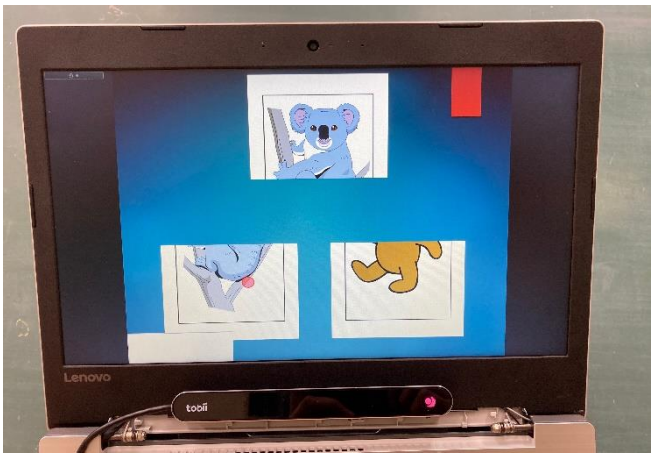
また、視線を使って物をとらえるためには、「自分で頭を真っすぐ保持する」「全身に力を入れすぎず姿勢を保つ」といった身体面の課題があります。トビーを使った学習では、姿勢の設定が非常に重要となります。

教材例

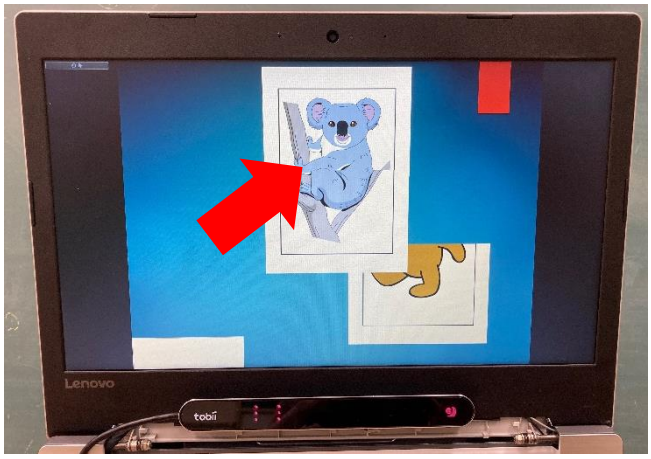
トビーに対応したソフトウェアやパワーポイント等で自作した教材を用います。専用のソフトにはシューティングゲームや射撃のように遊びながら学習を進められるものもあり、児童生徒の実態や興味に合わせて、教材の難易度を変えることができます。以下に、パワーポイントで作成した教材の活用例を示します。

【教材例１　カードの絵合わせ】

動物などのイラストを半分（２分割）にしたものを提示して、２択で正解を視線で選びます。正解を選ぶと、アニメーションで動物の絵が動いて確認することができます。２択を３択、４択と増やしたり、分割を４分割、６分割と増やしたりすることで、難易度を調整することができます。



正解のコアラを選ぶと・・・

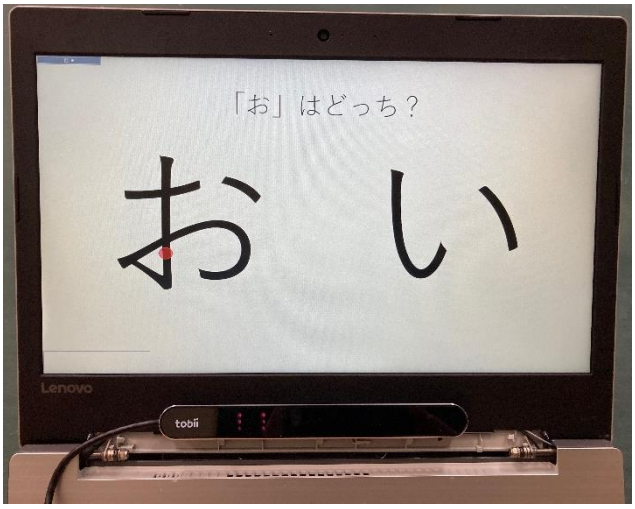


カードが動いて絵合わせが完成します

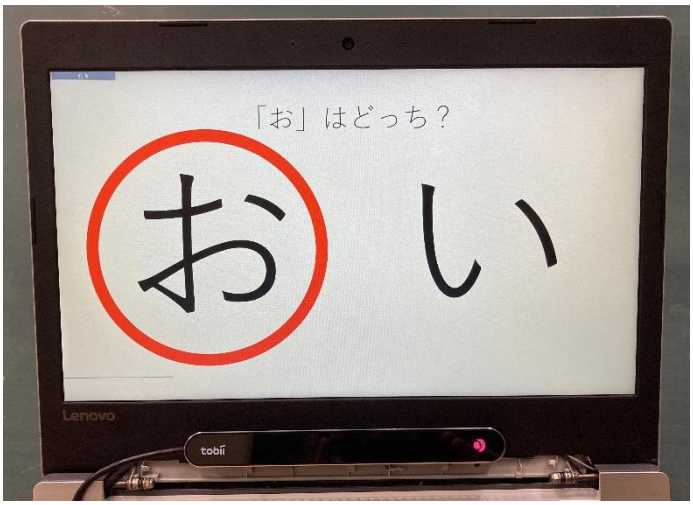
【教材例２　ひらがなのマッチング】

ひらがなを２択（またはそれ以上）提示して、正解を視線で選びます。正解を選ぶと、アニメーションの丸の図形と共に「ピンポーン♪」という音が出て、正解を確認することができます。

形がまったく異なるひらがな同士は見比べやすいですが、「め」と「ぬ」、「わ」と「れ」など、似ているひらがな同士の見比べは難易度が上がります。ひらがなを適切に理解するためには、文字の細かい構成を捉える力が必要です。そのためには、先に示した絵合わせのような学習の積み上げが重要となります。



正解のひらがなを選ぶと・・・

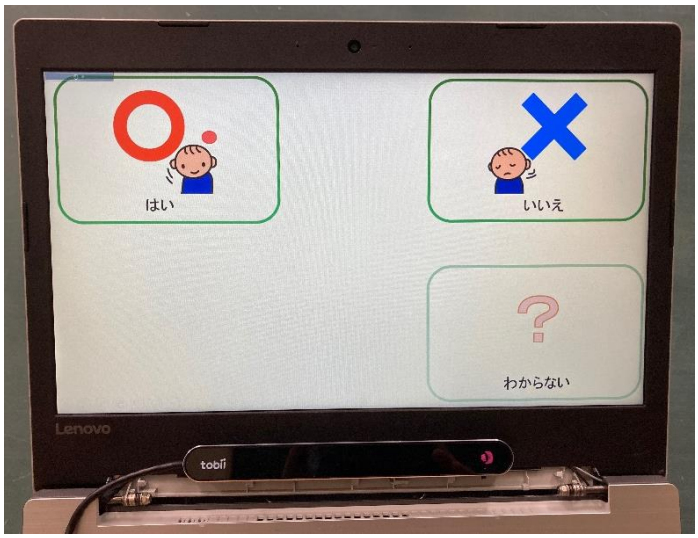


「ピンポーン♪」と赤丸が出て正解がわかります

【教材例３　「はい」「いいえ」の選択】

「はい」「いいえ」を意味するイラストを提示して、やり取りの中で意思表出の時に用います。コミュニケーションカードをパワーポイントに転写したようなイメージです。他にも「うれしい」「かなしい」といった感情を表すイラストや、「おちゃ」「トイレ」といった生活場面に関わるイラストのページを用いることにより、コミュニケーションの幅が増えると考えられます。

また、同じコミュニケーションカードを用いて実生活でやり取りする場面を増やすことが重要です。様々な場面でカードを活用することを通して、コミュニケーションの手段の確立を目指します。



「はい」「いいえ」を選択する様子

指導の展望

地域の学校ではあまりなじみのないトビーですが、近年特別支援学校での導入が進んでいます。また、実際にご家族が購入し生活や学習に取り入れている児童生徒もいらっしゃいます。児童生徒の実態により活用は様々ですが、コミュニケーション手段を確立することは学校生活だけでなく卒業後の生活にとっても非常に重要な課題であり、創意工夫の指導が求められると考えます。

地域の学校でトビーの導入を考えている、もしくは現在活用していて指導に困っていることなどあれば、本校の支援相談までどうぞお問い合わせください。

*)総輸入販売元　株式会社クレアクト発行「視線入力装置&ソフトウェア総合カタログ」より